

平成 27 年度 地域スポーツクラブマネジメントセミナー 第 6 回 実施報告 (1/23 開催)

第 6 回「スポーツボランティアから考えるクラブの未来」

講師：二宮 雅也 氏（文教大学 人間科学部 准教授
NPO 法人日本スポーツボランティア・アソシエーション理事）

今回の第6回地域スポーツクラブマネジメントセミナーは、日本各地でスポーツボランティアの育成・普及に取り組まれている、二宮雅也氏をお招きして実施されました。地域スポーツクラブの理念やスタイルを踏まえると、ボランティアな精神を持った人が関わるのは必然的なことであり、スポーツボランティアとクラブの接点が説明されました。

まず、マラソンブームを支える「巷で流行っているスポーツボランティア」の事例を挙げ、東京マラソンのようにボランティアがやりたくてもできないイベントの存在、アスリートボランティアといった様々なボランティア形態の存在が理解できました。イベント



におけるスポーツボランティアの経済的な意義は大きく、イベント運営の一端をボランティアで賄うことで、税金の投与なく開催でき、イベント自体も地域一体となって盛り上げることができる」と説明されました。地域スポーツクラブは地域でのマラソンイベントを盛り上げる担い手として期待され、実際に横浜マラソンの事例を挙げ、クラブとマラソンイベントの接合点が見出されました。また、これからの地域スポーツクラブは、以前からの「する・みるスポーツ」メインのプログラムだけではなく、子どもに支えるスポーツのプログラムを提供する必要があるとし、その理由としては、幼い頃から、地元のイベントに関わった経験は子ども達にとって地域を意識するきっかけになり、地域愛着の希薄化という地方都市の重要課題に対する解決策に成り得ることが説明されました。

イベントだけでなく、障害者が日常的にスポーツを行うためのお手伝いやクラブの人材育成の観点から日本各地の地域スポーツクラブが行うスポーツボランティアの事例が紹介され、地域に根差し、みんなで運営するクラブという地域スポーツクラブのゴールに、スポーツボランティアは必要不可欠であることがわかりました。ワークショップでは、「地域スポーツクラブにはどんなボランティアが必要か?」、「ボランティアに必要とされる人材は無償でいいのか?」という2つのお題でグループディスカッションが行われ、セミナー参加者各々の立場から、盛んな意見交換がなされました。

最後に、東京オリパラにむけてスポーツボランティアが人々の楽しみとしてブームメントになっているが、現代のボランティアの考え方は、無償性・社会性が念頭に強く打ち出される現状があることが説明されました。本

来有償であるべきクラブ内の専門職の人も無償で働き、スポーツボランティアという綺麗な言葉に集約されては、永続的なクラブの発展ができないのではと二宮氏は危惧していて、有償・無償のスタッフが上手く手を取り合えるシステム、組織づくりを考えていかなければならないと述べられました。スポーツボランティアは地域愛着を築く取組として、またその多様な関わり方から多くの人がスポーツの爽快感を味わえるクラブのプログラムとしてのツールとなる可能性を感じられた、受講生にとって有益な講義であったと思われます。

